

板書の工夫



板書を生かすために重要なことは何ですか？

道徳科の板書は、児童生徒が**道徳的価値についての思考を深めるため**の重要な手掛かりです。思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をすることが大切です。



思考の深まりを意識した板書例

ホワイトボードの活用

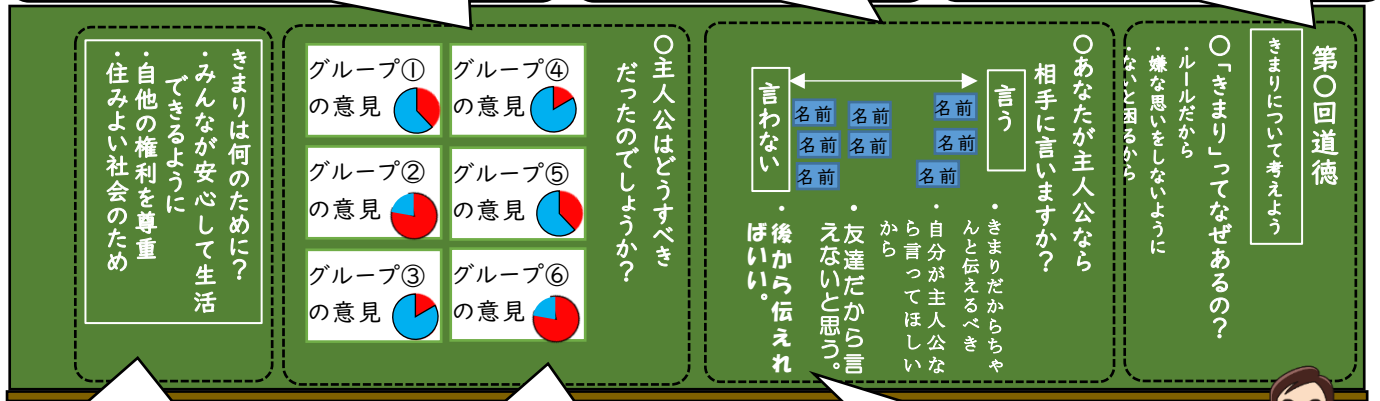
グループでの話し合いがスムーズになり、視覚的に意見を共有できます。

ネームプレートの活用

児童生徒が立場を表しやすくなります。

「第〇回」

道徳科の量的確保につながります。



きまりは何のために？
みんなが安心して生活
できるよように
・自他の権利を尊重
・住みよい社会のため

グループ①の意見
グループ②の意見
グループ③の意見
グループ④の意見
グループ⑤の意見
グループ⑥の意見

○主人公はどうすべきだったのでしょうか？

あなたと主人公なら相手に言いますか？
言う
・きまりだからちやんと伝えるべき
・自分が主人公なら言ってほしいから
・友達だから言えないと思う。
・後から伝えればいい。

第〇回道徳
きまりについて考えよう
○「きまり」ってなぜあるの？
・ルールだから
・嫌な思いをしないように
・ないと困るから

道徳的価値の深まり

終末に児童生徒の思考の深まりが分かるようにします。

心情円

個人やグループの立場を示す方法もあります。

黒板に書かせる

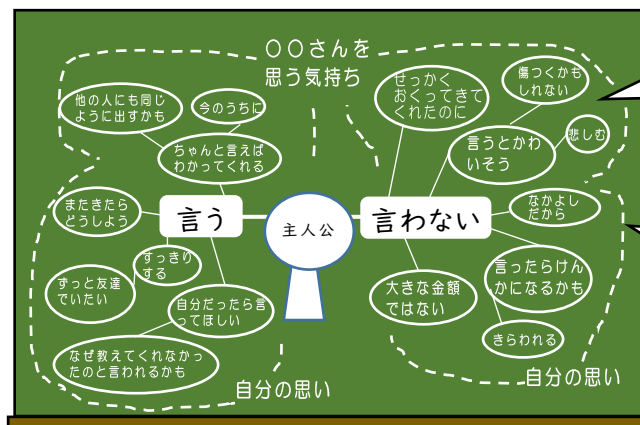
児童生徒の主体性が高まります。



思考を構造的に表す板書例

ウェビング (マップ)

関連したことをつなげて網のように発想を広げていく方法です。短い言葉で表現でき、自分の考えを表出しやすいほか、視覚的に分かりやすく、考えを広げたり、考えたりできます。



考えの類別

「友達を思う気持ち」と「自分中心の気持ち」を上下に分けます。

考えの対比

「言う」と「言わない」を左右に分けます。

紹介したものは、ほんの一例です。ウェビングマップ以外にも座標軸やベン図、マトリクス図など、様々な思考ツールがあります。学習指導案集「8 実践の記録」に実際の板書を掲載してありますので参考にしてください。



参考文献

[1]	道徳教育編集部：道徳教育	2017年 6月号	p34 - 35	明治図書
[2]	道徳教育編集部：道徳教育	2018年 8月号	p38 - 39	明治図書